

平成 30 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471000545	事業の開始年月日	平成13年10月1日
		指定年月日	平成13年10月1日
法人名	株式会社 コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター下倉田		
所在地	(〒244-0815) 横浜市戸塚区下倉田794-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

初詣・お花見といった季節行事をはじめ、恒例の誕生会や秋祭り、一泊旅行・クリスマスパーティーは入居者・御家族の楽しみになっている。  
食事はスタッフが考えたバランスの取れたメニューを旬の新鮮な食材を使い手作りで提供している。  
敷地内には花壇や菜園があり季節の草花や野菜の収穫を楽しむことが出来る。また、広い庭を散歩することにより季節を感じたり下肢筋力の向上にも繋がっている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成31年3月1日	評価機関 評価決定日	平成31年4月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇食の取り組み ・ユニットごとに利用者と相談しながら献立を決めて、利用者と協力して作った食事を職員も一緒に談笑しながらとっている。季節の行事食や菜園で収穫した野菜の活用、外食や事業所の庭でのランチなど食を楽しむ取り組みをしている。</p> <p>◇利用者の現状や思いを尊重した支援 ・食事やレクリエーションなどはユニットごとに利用者に合わせて提供し、誕生日は買い物や外食など希望に応じた過ごし方で祝っている。個別担当職員が丁寧な観察で利用者個々の現状や思いを把握して支援している。</p> <p>◇生活に変化をつける多彩な活動 ・お花見や秋祭り、クリスマスパーティなど毎月のように行う多くの活動で生活に変化を付けている。職員が同行しての一泊旅行も実施している。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇「個人経過記録」などをもとに個別担当職員が作成した利用者の現況報告「お知らせ」を毎月家族に送っている。</p> <p>◇子どもを連れての勤務を受け入れ、職員が働きやすくするとともに、子どもとの触れ合いは利用者の楽しみにもなっている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	桜の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と5つの指針についてユニットごとにミーティングで実践出来ているか話し合いながらサービスを提供している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念、指針を玄関ホールや居間に掲示し、職員は各種会議で理念に沿った実践を確認している。</li> <li>・ユニットごとに利用者と相談して献立を決めて、手作りの食事を提供するなど、理念「利用者と一体感あるサービスの創造」に努めている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民を対象とした秋祭りを開催し、毎年大勢の方が参加され交流している。町内会の防災訓練などにも参加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入し、地域の防災訓練に参加している。</li> <li>・事業所秋祭りには多くの地域住民が参加し、近隣への散歩や買い物のほか、地域ケアプラザが開く体操教室などで利用者は地域の人たちと交流している。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族から友人知人について相談があった時は経験と知識を基にアドバイスをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。活動報告を行いそれに対する意見はサービスに活かしている。さらに地域の情報交換も行い毎回活発な意見交換が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月に1回家族代表や地域包括支援センター職員が出席して運営推進会議を開き、事業所の活動報告や情報、意見を交換している。</li> <li>・ヒヤリハット報告などへの意見を支援や運営の参考にしている。</li> <li>・現在自治会役員など地域からの会議への参加はない。</li> </ul>	地域との連携のため、今後も働きかけを続け、運営推進会議への地域住民の参加を得ることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区担当者には問題がある時には相談しているが、日常的には地域ケアプラザとの連携が多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議録は毎回戸塚区担当者に送付し、事業所の実情や取組みを伝えている。</li> <li>・利用者と家族との関係など、事業所としての対応に迷う時には、戸塚区担当者に相談している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全員定期的にミーティングで学習して防止に努め「身体拘束等適正化委員会」を運営推進会議で開催し現状報告をしている。ユニット入口の電子ロックについては御家族に説明し理解を得ている。	・職員ミーティングで、身体拘束等適正化委員会での検討内容を周知するとともに、身体拘束廃止の知識習得やケアの振り返りを行っている。 ・職員に気になる言動があれば管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については身体拘束と合わせて学習しており防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者が複数人おり実務で学習できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前も入居後も不安や疑問にはきちんと説明して理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や要望書で意見を聞いたり、運営推進会議の家族参加者から意見を聞き反映させている。	・会話から把握した利用者や家族の意見は業務日誌や個人経過記録に記録し検討している。 ・介護計画作成の際に、利用者や家族から生活全般への要望を聞き、運営にも反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々のスタッフからの要望や提案は、管理者が会議で代表者に伝えている。	・管理者はユニットごとの運営について職員の意見を尊重し、業務手順、献立、レクリエーションの企画などに職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面も職場環境も従業者個々を把握してやりがいある職場であるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や資格取得の研修費負担などスタッフのスキルアップを応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内管理者同士での勉強会やサービスの質の向上についての話し合いは定期的に行い十分刺激し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前も後も不安な気持ちを十分理解しながら関係づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時から丁寧に要望に耳を傾け、入居後も不安がないように関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から現状を把握した上で必要とされる支援を行い、満室時には他のグループホームの情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは時間が掛かっても行えるよう見守り、一緒にお手伝いをして頂きながら共に生活をしている関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や年中行事に参加して頂いたり、通院同行や外出など出来るところはお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来ていただくが、お墓参りや馴染の場所には御家族が同行している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面会の際にはお茶など出して寛いで過ごせるよう配慮している。</li> <li>・外出や外泊の際には食事や服薬の注意点などを家族に伝え、安心して過ごせるよう支援している。</li> <li>・年賀状作成を手伝うなど、関係継続を支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事手伝いを皆で行ったりレクリエーションを行ったりすることで連帯感が生まれ、声を掛け合う入居者同士もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入所の場合は面会に行くなどその後の様子も気に掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを表出出来る方には意見を聞きそうでない方には本人が望んでいるであろう事を検討している。	・職員は利用者のペースに合わせて丁寧に会話している。選択肢を示しての問いかけなどで意向の把握に努めている。 ・会話での把握困難な際は様子や表情の観察、家族や長く勤務する職員からの情報を参考に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やケアマネージャーからこれまでの生活の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや定期的に行うケアカンファレンスで現状把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	しっかりアセスメントし、家族からの要望書や個人担当者からの意見なども反映してケアプランを作成している。	・日常の様子や医療情報を記録した個人経過記録などを資料にして毎月ケアカンファレンスを行っている。 ・原則1年ごとに、アセスメントやカンファレンス記録、利用者や家族の要望などをもとに介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を個人記録に記入して情報を共有し、またケアカンファレンスで話し合いながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状況に合わせて柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の往診医が月2回訪問診療している。緊急時にも往診や指示があり適切に医療が受けられている。	・大半の利用者が事業所と連携する訪問診療医をかかりつけ医とし、月2回の診療や往診、専門医の紹介を受けている。入居前からのかかりつけ医を継続する利用者もいる。専門医には原則家族が同行している。 ・週1回、訪問歯科による治療や、歯科衛生士によるケアや指導を受けている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護には日常の変化を伝え受診やケアのアドバイスももらっている。緊急時の対応もあり安心して支援が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期退院に向け病院や家族と情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明しているがその時がきたら往診や家族と話し合い家族の意向に添えるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化した場合の指針は入居時に説明し、同意を得ている。</li> <li>・看取り介護が必要な際には、全職員が当該利用者への支援について話し合い、医療関係者と連携して支援している。</li> <li>・去年2人、今年1人の看取りを行った。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊員から応急手当の指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を行っている。町内会の防災訓練にも参加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定避難訓練を年2回行っている。地域住民は若い家庭が多く、平日は家にいないため参加はない。</li> <li>・水やアルファ米などを3日分ほど備蓄するほか、コメなど普段食材に使っているものを常時多めに保存している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民参加の事業所避難訓練実施に向けて、更なる働きかけを期待します。</li> <li>・備蓄品の管理を確実にするため一覧表を作成することに期待します。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けをしながら人格を尊重して対応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ご利用者本人の尊厳と家族の意思を尊重する」という指針をミーティングルームなどに掲示し、職員は指針に沿った支援に努めている。</li> <li>・管理者は、職員の不適切な言動に気が付いたら注意している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声掛けを工夫したり思いや希望を表出できる雰囲気づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活に於いて無理強いすることなく、その日の状態に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行って洋服を選んだり、好みを把握しておしゃれが出来る様に支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は手作りで毎日手伝う方や時々手伝う方もいる。行事食や外食、そして誕生会には本人の好みを取り入れ献立作成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の好みに合わせ、また季節感のある家庭料理を職員が手作りしている。配膳を手伝う利用者もいる。</li> <li>・献立は、職員が利用者と相談して作っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量やバランス、水分量は持病により違いがあり一人ひとりに合わせている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による口腔ケア指導があり、スタッフも指導を受けてケアの介助をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけオムツではなくリハビリパンツとパットを使うようにしている。</li> <li>・排泄チェック表で時間を見てトイレに誘導している。</li> <li>・排泄の失敗には、他の利用者に気づかれないよう対応している。</li> </ul>		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認して水分量や散歩などを工夫して予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に合わせ時間や回数を調整している。季節を感じられるように菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2、3日ごとの入浴を原則とし、入浴したくない利用者には、声掛けを工夫して誘っている。</li> <li>・一人で入浴したい利用者には脱衣所から見守っている。</li> <li>・利用者の状況に合わせて、シャワー浴や足浴にしている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状態や状況を把握して入床や休息の7時間に変化をつけて安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況がいつでも分かるように個人ファイルに薬の処方説明書がある。変更がある場合には記録してスタッフ全員がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ洗濯物を干す畳む、掃除機を掛ける、食事作りに参加するなどの役割を持っている。歌や談話、言葉遊びなどレクリエーションを楽しめるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には敷地内や近隣の散歩を行い、また季節ごとに外出行事を企画し実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨でなければ、敷地内にある花壇や畑の散歩に利用者を誘っている。畑の野菜を収穫することもある。</li> <li>・一緒に買物にでかけて、コーヒーショップで休憩することもある。</li> <li>・初詣やお花見のほか、毎年一泊旅行の機会も設けている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは預かっているが、出来る人には自由に買い物を楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望する人はいないが年賀状には一言書き添えてもらい送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度など空調には十分気を配り快適な環境づくりをしている。リビングの壁や玄関ホールなどには季節ごとの装飾を行い楽しんでいただいている。	・床暖房を設置し、室温や湿度は利用者の様子を見て調整している。 ・ひな祭りや桜などの季節の飾りを利用者と職員で手作りして、リビングルームの壁に掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う入居者同士が座ることで安心感を持っていただきまた、ソファで過ごしたりテレビを見る為に席を移動したりとその時の状況に合わせた対応をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、気に入った置物などを飾り、一人ひとり個性のある居室となっている。	・造り付けのクローゼットとエアコンのほかは、利用者が各自好みの物を持ち込んでいる。位牌や家族の写真、自分で作った作品などを置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をつけて分かりやすくなっている。入居時にはトイレなどは案内板で分かりやすく表示し、手摺りで安全に移動が出来る様になっている。		

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	菊の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と5つの指針があり、それに基づいたサービスが行えているかミーティングで話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年秋祭りを開催して地域の方々と交流を深め、また地域の一員として町内会の防災訓練に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族の親類の方のご相談など、経験を活かしアドバイスをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、活発な意見交換や地域の情報交換が行われサービスに活かされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区担当者との関わりは少ないが地域ケアプラザの担当者が運営推進会議に出席され取り組みや実情を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで定期的に身体拘束についての勉強会を行い、運営推進会議で身体拘束適正化委員会も同時に行い実情を報告している。 ユニット入口の施錠については御家族の了解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて虐待についても勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおり実務として学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な説明を行い理解を得て、介護保険改定時には文書で説明して行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加の御家族からの意見、ケアプラン見直し時の家族の要望書に書かれた意見は反映させている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなど意見の出やすい場を設け、スタッフからの提案は管理者が会議で代表者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの努力や実績を給与に反映させ、職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会もあり資格取得の支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	サービスについては法人内の管理者会議などで意見を出し合い向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前も開始後も不安な事や要望を傾聴し安心して頂けるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時から家族の困っていることや要望を聞き、安心できる関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に今のようなサービスが必要かを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは時間が掛かっても行えるように見守り、また家事を手伝ってもらい事によりともに生活する関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や行事への参加、通院同行や外出の支援など家族との関係も継続しながら共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人の面会や一緒に外出するなど交流を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格等を把握し共に生活し支え合う関係づくりを支援している。孤立しやすい方にはスタッフが間に入り関わりを持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に連絡を取りその後の経過確認や面会に行ったりフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の聞き取りや生活を共にながら本人の思いを把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族からの情報やケアマネージャーからサービスや暮らし方などの情報を得て生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々スタッフ間での申し送りや、また定期的なミーティングで情報を共有して把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人担当者から出された課題をケアカンファレンスで話し合い、さらに御家族からの要望書を基に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や経過記録を基にケアカンファレンスで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が出来ない通院介助や衣類の買い物などその時々に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との体操教室に参加したり近くに住む先生にお願いして陶芸教室を行ったりして生活を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医と連携を取り情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった時はかかりつけ医に連絡して指示を仰いだり往診してもらっている。また訪問看護師が毎週来て入居者の健康チェックをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族やソーシャルワーカーを情報交換して早期退院に向け話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についてはその時々家族や後見人と話し合い本人にとって最も最適な支援が出来るよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練や救急対応の勉強会を実施して急変や事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を行っている。町内会の防災訓練にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度には十分気を付けている。スタッフ一人ひとりが真心を持って対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりときちんと向き合い思いや希望を表せるように耳を傾けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには特に気を配っている。おしゃれは個性を大切にその人らしく支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの料理はスタッフも一緒に食卓で楽しみながら食べている。届けられた食材のチェックをしてもらったり盛り付けなどの手伝いをしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴による禁食や制限に注意し、栄養バランスの取れた献立を考えている。水分量もチェックしながら不足がないように工夫し、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っている。定期的な訪問歯科の検診と歯科衛生士による指導で一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。またそれを活かし声掛けや誘導でトイレでの排泄、自立支援にも取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として乳製品のおやつや飲料を提供している。更に日々の散歩や体操などで体を動かす取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	無理強いすることなく一人ひとりの希望やタイミングに合わせた声掛け、介助を行っている。ゆっくり楽しく入浴出来るよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方が自由に居室で休息している。就寝時間も事前に空調を整え快適に入眠出来るように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてや変更の場合は往診医から説明を受けスタッフ間で共有している。また薬局が一人ひとり分包して届けてくれる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の時にお酒を飲まれたり、陶芸教室に参加したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	友人と外出したり、誕生日にはスタッフと外出して外食、買い物を楽しんでいる。また、外出行事を計画して出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは基本的に預かって管理しているが外出時には自分で買い物出来るように支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが年賀状を書く方や携帯電話を持ち家族や友人と連絡を取り合ってる方がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節を感じられ装飾をし、温度・湿度計を利用して空調管理をしている。また、不快な臭いがないよう換気にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で座り会話を楽しんだり、場を離れてソファに座れるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品を持ち込み、居心地の良い居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な個所に手摺りが設置しており、また入居者のADLに合わせて家具の配置を変えるなど安全に移動しやすいよう工夫している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター下倉田

作成日 平成31年4月19日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に地域住民の参加がない。	地域住民に参加していただく。	自治会組長と連携を取り、参加をお願いする。	3か月
2		避難訓練に地域住民の参加がない。	地域住民に参加していただく。	自治会組長と連携を取り、参加をお願いする。	3か月
3		備蓄品毎に数量は書かれているが、一覧表がない。	一覧表を作成する。	現在一覧表を作成中です。	2か月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。